



葛闘？解離？咆哮？

宿題テストの採点をしたのだが【問題3】はやはり難問であったらしく、出来が思わしくない。もう一度問題を挙げておくと、

- ①人の世ははかないというムジョウ観。
- ②眼下の家並みをフカンする。
- ③文明に汚されないムクな自然。
- ④どちらにも属さずチュウヨウを守る。
- ⑤イショウを凝らした作品。
- ⑥長年にわたる親子のカットウ。
- ⑦事実に基づかないシイ的な解釈。
- ⑧本音と建前がカイリしている。
- ⑨親とはぐれた子狐がホウコウしている。
- ⑩人情のキビ。
- ⑪定家の歌は（ ）に膾炙している。
- ⑫店は連日（ ）鳥が鳴いている。
- ⑬王に諫言して（ ）に触れた。
- ⑭齒に（ ）着せぬ物言い。
- ⑮二つの店が顧客獲得で（ ）を削る。

＊

①と④、⑤、⑩、⑫は出来ている人が多いが、⑪～⑮に関しては、言葉は思い浮かんでもそれが漢字に直せなかった人が多い。例えば「⑬逆鱗」は、「激」が多くて「鱗」は書けない人が多かった。「⑭衣」は、「きぬ」という読み引かれて「絹」が圧倒的。「⑮鎬」は難問だろう。（ちなみに、今年のセンター試験の評論は「鐔」という小林秀雄の随筆風の文章だったが、さてこの「鐔」を読める？センター試験の問題では、この語に「日本刀で、柄と刀身の間にはさむ装具（次ページの図を参照）」と図をつけて注をつけているがこれは「つば」と読む。）

夏休み中に、現代文・古文・漢文とそれぞれ勉強会に出かけて来たが、中でも現代文の勉強会は面白かった。講師はS予備校のS・S先生で、「センター現代文を完答に導く教授メソッド」というテーマでの勉強会であったが、その中で先生は、やはり受験生の語彙力が脆弱になってきているとおっしゃっていた。特に、10年前くらいからそれが顕著になってきていて、その結果（君たちにも副教材として持ってもらっているが）、「現代文単語集」みたいなものが出版されるようになり、先生ご自身もそのようなものがようになってきていると感じているようだ。

「英単語集」や「古文単語集」なら分かるが「現代文単語」とは…という気分は私もあるのだが、君たちに副教材を持ってもらっていることから分かるように、やはり私たちの認識も同じなのである。

入試で出題される文章に登場する語彙は、君たちが日常生活で出会う語彙とはやはりレベルが違う。筆者のイイタイコトを正確に読解しなければならぬ現代文で、筆者が使っている語彙が正確に理解できていないとすれば、筆者の論理をたどることなど不可能な話である。まずは筆者レベルの語彙力を養成することが、現代文読解の基礎になるというわけだ。

漢字の書き取りなど、単純作業のように思えるかも知れないが、漢文の研究会では、二字熟語の語構成を意識させることが漢文上達のきっかけになるという話もあった。漢字にしっかり取り組み語彙力を高めよう。